

新改革推進首長会議

平成20年2月7日、東京都千代田区平河町の新国際会議場に、66市町村の首長(うち代理出席8自治体)が結集し、「新改革推進首長会議」が発足した。同会議の発足に賛同したのは247自治体。同日現在で全国の市町村数は1,795。その13.8%が賛同した同会議発足の意義は大きい。

任意団体「新改革推進首長会議」の活動目的は「20年後を見据え、規制改革・地方分権・官民協働を強い力でかつ着実に推進していく必要がある。改革を具体的に検討し、改革推進のための意見と情報を交換し、更に必要に応じた規制改革を求めていくための場としていく」ことである。例えば、内閣規制改革推進本部が注力している「特区、地域再生、規制改革、公共サービス改革集中受付」等の機会を活用して、公共サービス改革のための制度環境整備や個別業務の“市場化”に必要な規制改革を具体的に要望していく予定である。当日の会議には、渡辺喜美行政改革担当大臣をはじめ、国政の場において様々な規制改革に取り組んでおられる方々が来賓として出席されていた。

同会議は当面3年間を目安に活動を継続していくことになっている。大いに期待したい。……と、他人事のように言うてはられない。我が三浦市の吉田市長は、当日座長を務められた埼玉県草加市の木下博信市長らと共に、この会議の発起人11名の一人なのである。三浦市における行政改革の指針である「行政革命戦略 5つの宣言」では、「『競争の導入による公共サービスの改革に関する法律』

(いわゆる市場化テスト法)への改正提案」を具体的活動計画として掲げている。これが正しく同会議の目的と一致しているのである。

ある政府系金融機関で調査役をされておられる知人から、次のようなメールを頂いた。「『幸福な家族はみな似たようなものだが、不幸な家族はそれぞれ独自の形で不幸である』(トルストイ『アンナ・カレーニナ』)ということわざがあります。さしずめ、『優良な自治体はみな似ているが、そうでない自治体はそれぞれ違う』ということでしょうか?』という内容だ。言い得て妙である。意を同じくする自治体が同時多発的に発起人となり、これに247自治体が賛同して「新改革推進首長会議」を発足させたことはまさに時代の要請であり必然である。賛同自治体は今後も大きく広がることだろう。



我が三浦市も、同会議構成員となった吉田市長を筆頭に、他の自治体と大いに連携して規制改革の運動に貢献していきたいと思う。同会議の事務代行という重要な役割を担っていただいた「市場化テスト推進協議会」(任意団体)及び同事務局長の大野沢人氏に、この場を借りて御礼を申し上げたい。

(政策経営部 木村乃)

「ぼっこすこせえる」とは…

神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

次号(第20号)は3月19日発行です。



三浦市長の吉田ひでおです。ガソリン税の暫定税率と道路特定財源を巡って国会では論戦が繰り広げられています。「つま先まで血流が流れていなければ健康とは言えない。半島の突端に位置する三浦市まで広域幹線道路が整備されなくては、三浦半島圏域が元気だとは言えない」と常日頃から私は主張しています。多くの地方都市と同様、広域幹線道路の早期整備を切望している本市としては、事業主体となる国・県の道路財源縮小につながる動きを黙って見過ごすわけにはいきません。また、これらの問題を地方道路の特定財源問題に矮小化してしまてはいけません。他の暫定税率の存続とそれによって成り立っている交付金等の確保、地方への配分格差の是正など、国政側からではなく、基礎自治体の目線でこの問題に潜む地方財政上、地方分権上の課題を総合的に捉え、国政にモノ申していく姿勢が必要だと思えます。